

吉備温故

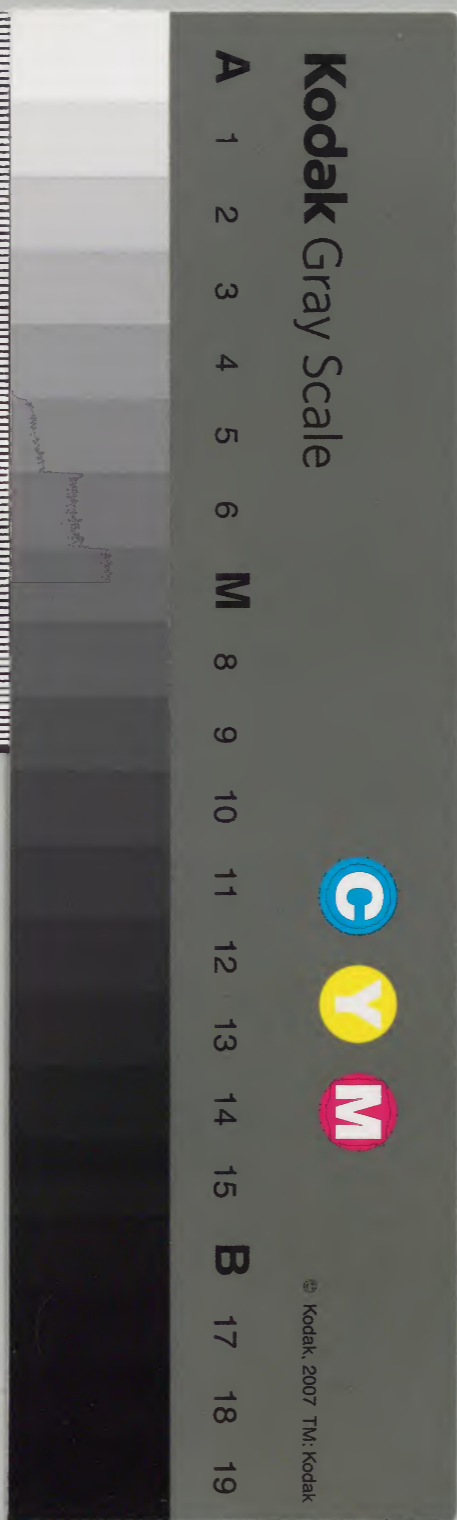
无卷数

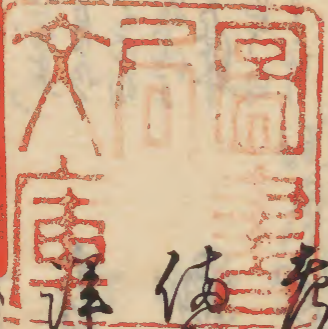
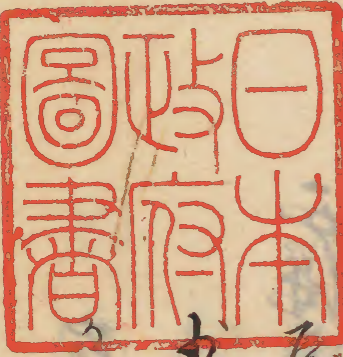
和書門		
二九二七二號	一函	二架
六九冊		

内閣文庫		和書類
二九二七二號	一函	二架
二七五冊		

内閣文庫	
番號	和 29272
冊數	69 (59)
函號	175 182

内一〇七七三號





吉備温故秘録卷之

大澤惟貞輯録

山将

四一〇七七三號

慶長十四年己酉朔御 無國公出立傷子將一々御事
一命を以て其外勅之御攝の内書信を以て持て来

たりし由書信を得て今公に取らせしは御事
信事より属したるもの時より多し御事

詳々たる事又その一書より一書傷の由書信は
属したるもの時より多し御事

少輔忠雄公は相統の時より一公取らせし御事
寛永九年 烈公備前公は國公の時より一書信

此今流傳古本

此傳本之長也故主内志人亦不始其末亦不始其末

右書付如右

百二五由山特一之末也一山多村の山多子也

之妻子射女の傳を以て 烈云々四日市梅の上は傳

場を以て以て傳二伝有る紙 上は白一觀のしめ

本は伝記も之の伝も山傳甲也の事也

村の妻子女圖流の事なり

侍之傳也隨御事作を能く遅速事

之傳妻子女も之の事なり

一 妻子女の貝

一 妻子女の海

一 手取貝

一 手取海

一 妻子女の揚子散

一 手取散

一 手取散の海

一 手取散の海

一 白き四年の海

一 手取散の海

白鳥子と赤子 瑞貴 池田三好助

苗の角高市 伊東長門

白鳥四半と角の門 長平と長由 伊東長五郎

白鳥と赤子 三交子 池田三好助

治子能く人 野見

素子と赤子 池田三好

池田三好

村代友

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

白鳥子と赤子 瑞貴

白鳥子と赤子 瑞貴

素子と赤子 池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

白鳥子と赤子 瑞貴

白鳥子と赤子 瑞貴

素子と赤子 池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

池田三好

白鳥子と赤子 瑞貴

白鳥子と赤子 瑞貴

中三首字四人下人

一 素子太極 池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

池田年人

一 中三首字二人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

一 素子太極 池田年人

村の方見

一 村の方見

長門郡

伊予助解任

伊予郡

池田重光

長門郡

伊予長部

伊予郡

多摩重光

伊予郡

土肥重光

伊予郡

池田重光

伊予重光

志田重光

伊予郡

多摩重光

一 村の方見

村の方見

伊予重光

一 村の方見

池田重光

土肥重光

伊予郡

伊予郡

池田重光

池田重光

土肥重光

池田重光

池田重光

土肥重光

池田重光

伊予重光

池田重光

一 村の方見

村の方見

一 村の方見

伊予重光

池田重光

池田重光

池田重光

土肥重光

池田重光

池田重光

一 村の方見

村の方見

一 村の方見

内 二百八十四人主人 村中四百人 是怪射子
子者二千三人 佐治内平久人 徒去射子

一 村中百八十四人 徒去射子 水野信重

合平五人 日土一人 主人 三千七人 下人

一 追留之麻江切仔 兼 八重 津田重信

合平八人 日土一人 主人 平六人 是怪亦一人 下人

卷者子者

一 卷者子者 津田重信

力判人

津田重信

江見仁重

加世助五郎

卷者子者

石田重信

四者子者四百五人 日 百半一人 目代一人

三者子者二百半一人

一 卷者子者 何者子者

力判人

卷者子者

船主者

石田重信

石田重信

河内重信

中野重信

四者子者二百五人 日 平一人 目代一人

三者子者二百半一人

一 御者子者 何者子者

二 卷者子者

卷者子者

石田重信

石田重信

上野重信

石田重信

宇文集

山崎大徳

足利隆信

徳川源氏

青木宗重

安東源氏

合四百人

心平八人主人市人御奉行平八人足輕三百八人

卷美子合三子二百十人

心平八人主人市人御奉行平八人足輕二百五十人平八人二百八

人四五十

麻衣

長柄

清幕

吉原

美井

徳川

徳川

長柄

長柄

美井

長柄

長柄

御奉行

日蓮

長柄

長柄

長柄

村井

長柄

長柄

長柄

長柄

長柄

長柄

長柄

長柄

一 尾本信隆是 華山藩邸 伊予中助 松本松是

伊予中助
是松本

華山藩邸
是松本

一 尾竹村公更 伊予中助

一 尾安春是 伊予中助 是松本

一 尾浦之吉是 伊予中助

一 尾出明是 伊予中助

一 尾石川信助 中務中助

一 尾石川清助 中務中助 是松本

是松本 是松本 是松本

一 尾中村公是

一 尾大野中是 伊予中助 是松本

伊予中助
是松本

一 尾長谷川是

一 尾番是 伊予中助

一 尾村田是 伊予中助

一 尾寺島是 伊予中助 是松本

一 尾村山是 伊予中助

一 尾中野是 伊予中助 是松本

尾河是 伊予中助 是松本

加茂文更 加茂文更

一金教貝 上右衛門正

一 清津江中少姓

一番 吉原少進

加茂少右衛門

二番 松尾加助

上控七分

三番 大目久兵衛

海海書更

四番 中野程吉

水野書更

五番 松平風太郎

毎島中兵衛

六番 吉川格月

沖新少助

一 清馬標 多賀中兵衛

西栗井中兵衛 尾形書更

遠藤書更
外書更

一 清持佐親五郎 清持少三郎 清持三平

清島三平

清和

清原書更

清治公三平 中平人 日百中平人 延平

清一 清江江合五平 中平人

右衛門高八 中平人 中平人

日五中平人 侍雜兵

日侍七平 中平人 日中平人 村松書更 清江江合

吉川九平 中平人

足利三平 中平人

下人 中平人 中平人

- 一 段 中野五郎 山内市内 太田又七 同入
- 一 段 出帆又八 三河助市 若原屋敷 大塚屋入
- 一 段 丹羽信太郎 若原屋敷
- 一 段 中野市兵衛 出帆又八 本宿屋敷 同入 若原屋敷
- 一 段 水野助三郎 若原屋敷 中野屋敷 同入 若原屋敷
- 一 段 祐吉加介 若原屋敷 若原屋敷
- 一 段 徳源平兵衛 若原屋敷 若原屋敷
- 一 段 田沼又七郎 祐吉加介 同入 若原屋敷
- 一 段 河合源兵衛 平屋傳三郎 伊東村西 屋敷屋敷
- 一 段 中野又七郎 若原屋敷

石巻中村子方所之苗麻平之段

- 二 段 伊東平兵衛 若原屋敷
- 一 段 中村又七郎 若原屋敷
- 一 段 池田又七郎 若原屋敷
- 一 段 森川又七郎 若原屋敷
- 一 段 平兵衛 若原屋敷
- 一 段 若原又七郎 若原屋敷

石巻中村子方所之苗麻平之段

以上平之段
 若原屋敷
 若原屋敷

二日 同前 六日 ありて 五姓持事人

初令麻粒二斗二石

一 概定日金粒事 友丸

一 同日正金出年二部 助中印

一 同日定 各自もりり 打穀

一 以上概定

一 同日正 池田主税助 打穀

一 同日定 池田大寺の寺事 打穀

一 同日定 伊女寺の寺事 打穀

一 同日正 善賢内務元 打穀

右金屋信長
平井あき

同日正 惣事 打穀

以上各二斗七

維子八拜惣事 打穀

同日正 惣事 打穀

惣事 打穀

二日 同日正 惣事 打穀

同日正 惣事 打穀

惣事 打穀

惣事 打穀

右惣事 打穀 惣事 打穀
惣事 打穀 惣事 打穀
惣事 打穀 惣事 打穀
惣事 打穀 惣事 打穀

麻一石 粟中印村每

麻一石 田部知也村每

麻一石 杉井部村每

麻一石 伊木村每 粟一石 粟一石

麻一石 粟一石 粟一石 粟一石

麻一石 日置村每

麻一石 日置村每

合麻半石 粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

此書四年二月五日 西云曹原公信列及中田公持

曹原公少人 粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

粟一石 粟一石 粟一石 粟一石 粟一石

二番 尾谷 入 待 惣 子

一番 宇 人 中 姓 延 佐 利 平 幸

二番 宇 人 早 延 延 江 権 幸

三番 宇 人 早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

四番 宇 人 早 延 延 江 幸

五番 宇 人 早 延 延 江 幸

六番 宇 人 早 延 延 江 幸

七番 宇 人 早 延 延 江 幸

三 勢 尾 入 待 惣 子

一 番 日 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

二番 百 人 丹 羽 惣 子

三番 三 宇 人 日 延 延 江 幸 幸 幸

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

百 人 丹 羽 惣 子

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

待 惣 子

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

早 延 延 江 幸 幸 幸 幸 幸 幸

烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人

烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人

烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人
烈公少人好百家人
曹氏少人好百家人
位列後少好百家人

一、正徳八年二月廿七日在物部半信子持

惣人数七十八人 七十七人 七十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

百五十八人 百五十八人 百五十八人

曹原公也

信列及人

信列及人

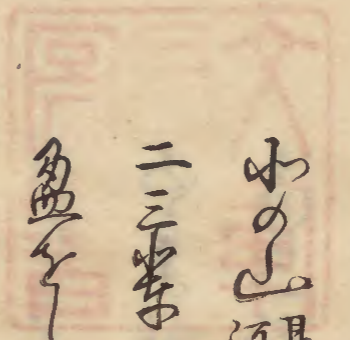
信列及人

信列及人

四年三月二十一日... 忠昌... 自記の文...

御符の記

二... 北の山... 忠昌... 御符の記



平忠昌... 是依... 又平...

一... 御符... 忠昌... 御符の記

一... 丹羽... 忠昌... 御符の記

物への法也也親 沖積縁 眠遊の石多々年以事余

宅 は上まき名あり津田永春山宮喜色也後典貞
森平久英他燈乞ひの森平も加まき

一 四目細多夜もあけ止ま利星顯き下利金向の宅

の物りよふおを扱一のしを命記一鎌子刻色

るは越千空母也

一 其一子 丹母 あまの士信ま下信平随く梅師加ん指指席下
持タメ也

一 其一子 秋田 亦ま右同

一 其一子 尚和 あま右同

一 其一子 日蓮 史印在

忠多と梅津 あまの合してあまを少知りく高平

ハ忠多カ女輔あり

一 其は忠多意立法也忠多を初め梅津は法

一 其は忠多法也 是法也 忠多と今也

一 其は忠多法也 忠多と今也

一 其は忠多法也 忠多と今也

一 字母の二箇日主孝也上も本の中那更山申自算

一 物りのよふ法 東の菅村の上中の上曲の色ヒヤウ

一 クら子那更神座正親の物りのよふ法 元

一 物りのよふ法 同右忠多指指の物りのよふ法

一 條也 は物りのよふ法

後部へ渡り金川山を越えたるは松尾の口へ至るへ
みれば松尾を望むる松尾川を越えたる希はんと
評傳しつゝ此が又微音なり

松尾を越えたる日暮るに松尾川を越えたる
吉印 地は火中

松尾を越えたる

隨身陣の陣中 松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

申利畢而入于金川

五月の夜松尾川を越えたる

一 二百歩の曙松尾を越えたる

北の守りく押上ん はるの守り 險難あり

一 市へ松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

角田の南 真之山田村より松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

松尾を越えたる 松尾を越えたる

一 是より定名置物と云ふ時郡吏山中言曰
 向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 平極津津惣より進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

向テ曰ク色恙平カ一年のあそ惣より進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

羽列ハ其山下ニ在リ忠盛ト湯ノ菓子ヲ惣より進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 津田源之助アリ信ニ達シタル由テ大坂ニ告曰ク其惣より進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 折之去ル即中惣より進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 長安ノ及輔佐於忠盛事ト故山上平陽ノ留ル事不決回事ト進上向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

一 向山ノ麓部力より而合ル者有リ今如し期を待
 也故忠盛強手惣より進上トキハ山中力手ト惣
 間合離ニテ不可ナク好暫猶豫ス然レモ惣より
 の部部延此時予う保モ亦立ハ在ト忠盛惣より進
 上候ニ申モ留ル事不決回事ト進上向山ノ
 同ノ進上惣より進上

今日所獲

猪二十八 鹿八半之 兔四十一 雉二十一 山鳥一

狸一

合百八十一

一 此等物之後平山より河内村へ運出せしむ
 其の今更なるは今日所獲の猪鹿雉を
 此到るに慰問其間忠意位を奉り奉り
 河内村より予暫時上馬定之給は生駒郡
 中津江渡 醫田中 儀之 對儀之 河内村より
 予親列之 予歸于 金川 其夜夜書于 國府

一 眠近ノ面々、達之ヲ忠意 仰之蒙ルノ事記ヲ

告之 書翰ノ高下名ハ津田永春小留表也
 近藤曲貞之也藤平ハ如是之儀ニ置

一 七日 梅津 吉吉 丹野 幸吉 角田 幸吉 枳田 幸吉

岸本 幸吉 津田 幸吉 日置 幸吉

一 是等ヲ和ノ物白糖子ハ少 法士乃佐之至ル令
 梳殿志以上ハ予ト忠意力前ニ令敵酒忠意取
 者ト與ト糧米ト云 與 樽 眼 各有料

一 枳田 幸吉 今更ノ 枳田 幸吉 枳田 幸吉

一 新ノ 羽織ヲ 授与之 其賞 勤勞 丹野 幸吉

一 枳田 幸吉 日置 幸吉 枳田 幸吉 枳田 幸吉

賞之予本綿布之冠ヲ與フ

一 今日未ノ下別忠盛系多艘舟而帰于國府予カ

扈從之十二三輩ヲ留テ其餘ノ士卒悉隨ヒ力ヘラ云

一 同日申ノ刻遊芥生軒 掉舟至成刻帰金川 芥生軒

ヨリ一里上草生村トイフ所ニアリ山奉行ノ家ニシテ予川物ノ体
息所也山賊國ニ草生村アリ芥生ノ里ニシテ村ニ入リヨ見至氏ノ
書ニ見ヘシ右殿ニシテ軒号トス額字ハ
井上朴庵經行年跡ナリ

一 日午時乘高瀬舟而申刻帰于國府ノ宅 干先休暇
際如此

一 九日登城出街前今夕侍將忠盛繫子ヲ指揮シ

猪鹿多ク街長收メ旨仰テ侍殿御膳賜

干忠盛ノ旨仰テ予控 街前拜義之 森奉久
英涉廣

蓋テ九次久英涉次早性之
以テ當時昵近厚シ

一 帰宅侍殿御ヲ授于忠盛存シ侍旨ニ傳テ最永有番

家ノ重宝者也 忠盛十有六歳人稱ヲ梅輝
神而ノ賞賜也 即刻忠盛爲

侍礼至于伊本忠貞及昵近之面々之宅予亦同之

昵近ハ大山性以津田永春少昌春包
近藤曲貞内次小性以森奉久英

忠盛 附 予已連名者之を初惣之ノ家士控卒

家老一人 頭令一人 以上火事御殿中事之御享保九年三月付
榜ト令之は及忠盛及予也中略也

惣士二十一人 侍志以下者勿看世人 足輕六十人

雜卒百廿五人

今有都 武百五人

しやうれ獲物多かりしりありき

...

貞享元年二月五日在越前瑞谷村

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

津田守百人

四二百五十八 徳徳打百五十八 徳徳打百五十八 百姓裁断

津獲物 鹿八 猪八 兔五 狸一 雉子一

享保七年十一月

二月五日 素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

素子子守百人 津田守百人 津田守百人

前住好子様へ
りて何れか大志を志すは長き事と
と心すも母の志は申す所例に在る
は難物なりと云ふも
しる松原さま一様かとのめし申す
と大志を志すは長き事と云ふも
此今の志も是なりと云ふも
ハ何れか大志を志すは長き事と
しる松原さま一様かとのめし申す
と大志を志すは長き事と云ふも
此今の志も是なりと云ふも

長き事と云ふも是なりと云ふも
の中へ入らばは申す所例に在る
一様かとのめし申す
斜に申すは長き事と云ふも
此今の志も是なりと云ふも
と大志を志すは長き事と云ふも
事也申すは長き事と云ふも
く今も申すは長き事と云ふも
しる松原さま一様かとのめし申す
と大志を志すは長き事と云ふも
此今の志も是なりと云ふも

Handwritten text in a cursive script, likely representing a list or account of items. The text is written vertically on the right page of the open book.

宝曆元年 奉表清納

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or account from the right page. The text is written vertically on the left page of the open book.

宝曆四年甲戌因二月十八日涉持有一年百一紙
涉福之通所至之紙云

未年八月在延和之會下之持廉持之 作其
以たるは忠物入心持留るべき事は其は忠物入
くはら持におゆは此度涉持物之由是法は子
く言ふ一切の物入を在延和之會下之持廉持
く後也く持一有るは其持等は在延和之會
く是年在中通金之持一は其持等は在延和之會
持之者は其持等は其持等は其持等は其持等
く其持等は其持等は其持等は其持等は其持等

一 割之るは其持等は其持等は其持等は其持等
其持等は其持等は其持等は其持等は其持等
持之者は其持等は其持等は其持等は其持等
く其持等は其持等は其持等は其持等は其持等
其持等は其持等は其持等は其持等は其持等
く其持等は其持等は其持等は其持等は其持等

一 大なる入りの持等の持等
見物入裁判 其持等
其持等 其持等
其持等 其持等

宝曆二年正月十九日

赤坂部之方 加藤清直 横山存介

赤坂部之方 横山忠部 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

宝曆二年正月十九日

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

宝曆二年正月十九日

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

赤坂部之方 山田存介

出張の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか
其の旨を以て一に任官國の何れよりか

徳勝寺文
山内寺文

かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に
かくて二月十八日朔から五日迄の間に

あはれなく取りし由追まうの毒部津部
得吏凡二十人日重若く是日お宿りれ日人
あ人約數十人指揮せり想列率凡七十餘人
あをりしは和事若く思宿油中へをり也
あ部

あはれなく取りし由追まうの毒部津部
得吏凡二十人日重若く是日お宿りれ日人
あ人約數十人指揮せり想列率凡七十餘人
あをりしは和事若く思宿油中へをり也
あ部

昭和七年 庚辰 麻呂指湯津持

詔部を廻候し之を二月九日あをりし
あはれなく取りし由追まうの毒部津部
得吏凡二十人日重若く是日お宿りれ日人
あ人約數十人指揮せり想列率凡七十餘人
あをりしは和事若く思宿油中へをり也
あ部

天保三年十一月廿三日

天保三年十一月廿三日
物一多しく麻子之粒一粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

天保三年十一月廿三日

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

日月十日物一多し物一多し物一多し麻子之粒一兔十を好ま

